Monitoring Sites 1000

環境省 自然環境局
生物多様性センター
Biodiversity Center of Japan

Wetlands INTERNATIONAL
特定非営利活動法人
日本国際湿地保全連合
Wetlands International Japan

速報：モニタリングサイト 1000 陸水域調査（湿原）植生調査

上川浮島湿原 サイト

－北海道上川郡－

上川浮島湿原は、道北地方と道東地方の接点に位置し、標高約 870 m の溶岩台地に発達した山地高層湿原です。大小 70 余りの沼が点在し、そのうちいくつかの池塘に浮島が見られることから、古くから“浮島”の名の下に知られていました。

アカエゾマツを主とする針葉樹が湿原を取り囲み、近年の空中写真から、付近には針広混交林や伐採跡地のダケカンバ林等も広がっていることが確認されています。浮島湿原を含む周辺は「上川浮島風景林」と呼ばれ、林野庁により「レクリエーションの森」に指定されています。

ライン 1 での調査の様子。
方形区内に出現する種やその被度等を記録します。

池塘にはエゾヒツジグサが生育し、7 月下旬から 8 月上旬に開花します。

浮島湿原の景観：アカエゾマツ林に囲まれた湿原の草本群落と池塘。

2018 年度の調査結果概要

上川浮島湿原サイトの植生調査を 7 月 24 日から 26 日にかけて実施しました。今回は本サイトでの 2 回目の調査となります（前回は 2015 年度に実施）。

ライン 1 は緩やかな傾斜で南東方向に進むラインで、約 100 m 付近まではイボミズゴケ群落が主体で、チャミズゴケのブルトやシュレンケがモザイク状に広がる高層湿原となっています。さらにその先で傾斜がやや大きくなり、ワタミズゴケやハナゴケ、チングルマが目立つチングルマーハナゴケ類群集が見られます。ライン 2 は、所々にチャミズゴケブルトやシュレンケが出現するイボミズゴケが優占する典型的な山岳地域のローン植生となっています。一方、入口付近の踏み付けによって裸地化した荒廃地では、徐々に植物が回復していくと思われますが、2015 年度の調査と比較して大きな変化はありませんでした。

湿原内では、2018 年度も外来種は確認されませんでした。エゾシカの食害は、2015 年度とほぼ同程度で、場所によってタチギボウシ等が食べられていました。森林との境界に近い湿原部分ではシカ道やヌタ場が見られることから、今後も注視が必要です。

【調査者・調査協力者】
冨士田裕子・イ　アヨン（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園）、横地　穣（北海道大学農学部）、佐藤雅俊（帯広畜産大学）

モウセンゴケ。
白い花はモウセンゴケの花です。

浮島湿原の景観。
湿原内には木道が敷かれています。

地表を覆うミズゴケ類。
緑色のものがイボミズゴケ、紫色のものがムラサキミズゴケです。

タチギボウシの花。

モニタリングサイト 1000 陸水域調査（湿原）についてもっと知りたい方はこちらにアクセスしてください。

モニタリングサイト 1000 陸水域調査（湿原）の過去の調査報告書。
http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/reports/index.html

モニタリングサイト 1000 陸水域調査（湿原）湿原調査マニュアル第 5 版。
http://www.biodic.go.jp/moni1000/manual/marshes_manual_ver5.pdf

Monitoring Sites 1000

環境省 自然環境局
生物多様性センター
Biodiversity Center of Japan

Wetlands INTERNATIONAL
特定非営利活動法人
日本国際湿地保全連合
Wetlands International Japan

速報：モニタリングサイト 1000 陸水域調査（湿原）植生調査

戦場ヶ原湿原 サイト

－栃木県日光市－

戦場ヶ原は栃木県北西部に位置する、日光火山群の山岳に囲まれた湿原です。標高は約 1400 m で、面積は約 400 ha に及び、関東地方では尾瀬ヶ原に次ぐ規模をもちます。ここでは、高層湿原から低層湿原までさまざまなタイプの湿原植生をみることができ、湿原内は日光国立公園の特別保護地区に指定され、日本の「重要湿地」やラムサール条約登録湿地（奥日光の湿原）にも挙げられています。しかし、人工排水路の影響による乾燥化や土砂の流入、シカの食害等、保全上の課題も多い場所です。

ホザキシモツケ。
涼しい湿地に分布する種で、本州での分布は非常に限られています。

フナガタミズゴケのマット上に生育するツルコケモモ。

戦場ヶ原湿原（調査地付近）の景観。正面に男体山を望む。

2018 年度の調査結果概要

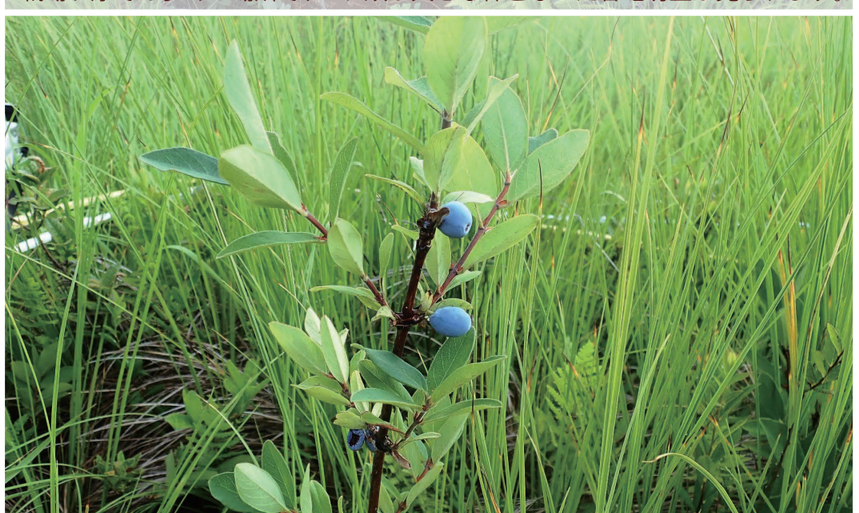
戦場ヶ原湿原サイトの植生調査を 7 月 20 日から 21 日にかけて実施しました。今回は 2 回目の調査となります（前回は 2015 年度）。本サイトではラインＡ（16 方形区）とラインＢ（19 方形区）で、高層～中間湿原の植物群落をモニタリングしています。両ラインには、ヌマガヤとホロムイスゲが谷地坊主を形成するタイプ、オオアゼスゲが谷地坊主を形成するタイプ、ワタスゲが谷地坊主を形成しミカヅキグサが多く生育するタイプ、水位が高くヤチスゲが優占するタイプなど、いくつかの植生タイプがみられました。例年より降水量が少なかったため、前回の調査時に比べて地表の水位が低下しており、ラインＡの一部で水生植物のコタヌキモがみられなくなりました。また、ラインＢの湿原周縁部に近い場所では、コバギボウシ等が新たに出現しました。しかし、全体的には種組成に大きな変化はなかったといえます。また今年度は、種が不明であったミズゴケ属についても標本を採集することができたので、今後、種の同定を行って正確な種組成のデータを整える予定です。

【調査者・調査協力者】
吉川正人・大隅翔馬（東京農工大学）、樋口正信（国立科学博物館）、市塚友香・宮田　亮（環境省生物多様性センター）、加藤　将（日本国際湿地保全連合）

オオアゼスゲの谷地坊主（ヤチボウズ）。
戦場ヶ原では多くの場所で、スゲ類が大きな株となった谷地坊主が見られます。

植生を記録する様子。
永久方形区内を調査するとともに、付近の種も観察しています。

湿原の地下水位計を交換する様子。
パイプ（写真中央）の中に機械を設置しています。



クロミノウグイスカグラ。
北海道では「ハスカップ」として親しまれています。調査時には果実が実っていました。

モニタリングサイト 1000 陸水域調査（湿原）についてもっと知りたい方はこちらにアクセスしてください。

モニタリングサイト 1000 陸水域調査（湿原）の過去の調査報告書。
http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/reports/index.html

モニタリングサイト 1000 陸水域調査（湿原）湿原調査マニュアル第 5 版。
http://www.biodic.go.jp/moni1000/manual/marshes_manual_ver5.pdf

Monitoring Sites 1000

環境省 自然環境局 生物多様性センター Biodiversity Center of Japan

Wetlands INTERNATIONAL 特定非営利活動法人 日本国際湿地保全連合 Wetlands International Japan

速報：モニタリングサイト 1000 陸水域調査（湿原）植生調査

鯉ヶ窪湿原 サイト

－岡山県新見市－

鯉ヶ窪湿原は、吉備高原の北西部に位置し、広さ 3.6 ha の広さを持つ地域の内、鯉ヶ窪池の上流部 0.9 ha の範囲に湿原が分布します。鯉ヶ窪湿原は中間湿原として多様性が高く、約 350 種に及ぶ植物が自生しています。オグラセンノウ、ビッチュウフウロ、ミコシギク等の希少かつ植物地理学上貴重な植物をはじめ、多数の湿生植物が自生し、「西の尾瀬沼」とも形容されています。鯉ヶ窪湿原は、国指定天然記念物に指定されているだけでなく、岡山県自然環境保全地域の特別保全地区及び野生動植物保護地区にも指定され厳重に保護されています。

ヌマガヤの中に咲くミコシギク。
ミコシギクは本州や九州の山地の湿地に稀に生育する多年草。

ムラサキミミカキグサ。
写真には写っていませんが泥中に捕虫嚢をもちます。

ケハンノキ群落の林床に見られたリュウキンカ。

2018 年度の調査結果概要

植生調査は 10 月 13 日から 15 日にかけて実施しました。今回は 2 回目の調査となります（前回は 2015 年度）。本サイトでは、3 本のラインを設置してモニタリングを実施しています。

ライン 1 周辺はケハンノキが優占し、5 月にはリュウキンカが一面に黄金の花をさかせ、8 月から 9 月にかけてはビッチュウフウロの群落が見られます。前回に比べ、ミゾソバ、ヒメシロネ、キセルアザミ、リュウキンカの出現方形区数と植被率が増加し、ヌマガヤはわずかに減少しました。ライン 2 はオグラセンノウの生育地の保全を目的に設定しているラインで、前回に比べてライン中心部のヨシが減少し、植生高が顕著に低下していました。ビッチュウフウロ、キセルアザミは大幅に増加し、前回確認できなかったオグラセンノウも確認されました。ライン 3 は鯉ヶ窪湿原の中でもっとも草丈の低い貧栄養型の植生で、コイヌノハナヒゲ、ヤチカワズスゲ、シロイヌノヒゲ、ヌマガヤ、ホザキノミミカキグサ、モウセンゴケ等が生育しています。また、ムラサキミミカキグサ、オオミズゴケ、コアナミズゴケも生育し、良好な植生が保たれていました。

【調査者･調査協力者】
波田善夫・太田　謙（岡山理科大学）、難波靖司・地職　恵（岡山県自然保護センター）、加藤　想（岡山県環境保全事業団）、井藤大樹（日本国際湿地保全連合）

沈水状態で生育するコアナミズゴケとヒツジグサ（矢印）。

食虫植物の一種であるモウセンゴケ。

植生を記録する様子。
永久方形区内を調査するとともに、付近の種も観察しています。

ライン 3 付近の景観。
本サイトの湿原植生としてはもっとも良好な場所です。

モニタリングサイト 1000 陸水域調査（湿原）についてもっと知りたい方はこちらにアクセスしてください。

モニタリングサイト 1000 陸水域調査（湿原）の過去の調査報告書。
http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/reports/index.html

モニタリングサイト 1000 陸水域調査（湿原）湿原調査マニュアル第 5 版。
http://www.biodic.go.jp/moni1000/manual/marshes_manual_ver5.pdf